



（右）橋本大輔社長、（左）後援会 上野勝弘会長

特集2 栃木SC、J2復帰！

## 栃木SCが悲願の

# J2復帰

### 今年はさらなる飛躍の年に！



栃木サッカークラブ（SC）が、昨年12月3日のリーグ最終戦で、2年ぶりにJ2復帰を決め、サッカーファンだけでなく地域全体が歓喜に包まれました。そこで、社長就任2年目にして復帰を果たした株栃木サッカークラブの橋本大輔社長と、栃木サッカークラブ後援会の上野勝弘会長（上陽工業株式会社）に話をうかがいました。



J2昇格を決めた12月3日のグループショット

### 「皆さまに支えられた2年間でした」

（橋本社長）

「栃木SCのJ2復帰、おめでと〜うございます。」

橋本 ありがとうございます。残念ながらリーグ優勝は逃しましたが、多くの方が望んでおられた「J2復帰」という目標を果たすことができ、ほっとしている同時に、改めて身の引き締まる思いです。

「後援会の上野会長は、設立当初から応援してくれましたね。」

上野 栃木サッカークラブ後援会は、栃木SCがJリーグに加入した年に設立されています。それから10年の節目の年にJ2復帰の悲願が果たせて、とてもうれしく思っています。

「復帰が決まった12月3日は、どちらにおられましたか？」

橋本 私は最終戦試合会場の沼津で、皆さまとともにスタジアムで試合を見ていました。

当日、会場で栃木サポーターの数にビックリしました。「チ

忍ばせているんですよ。初心を忘れないために。今回J2復帰がなかったので、今年はいわば2度目の「J2元年」ですね。そう考えるとうれしさも2倍です。

「1人でも多くの方に『俺たちのチーム』と感じていただきたい」

（上野会長）

「栃木SCには、地域貢献という役割も期待されていますね。」

橋本 サッカーチームですからスタジアムでゲームをすることが使命ですが、同時に市民のチームとして、地域貢献にも力を入れています。選手によるサッカー教室は、子どもたちに喜ばれていて、私たちにとても重要な事業となっています。選手ばかりではなく、チャリダーや私たちクラブ運営スタッフも、さまざまな形で地域と関わりながら、少しでもお役に立てるよう努力しています。

最終的には、地域の皆さまから「栃木SCがあつて、良かったね」と言ってもらえること。これが、地域のチームとしての存在意義だと思います。そのため何ができるかを、日々考えながらやっています。

上野 栃木SCは、栃木県で生まれ、育てられてきたチームです。だからこそ、地域への恩返しもしっかりやらなければいけないと考えています。

「チームはこの人たちがついていっているんだ」と思ったら、とても勇気がわきました。選手たちも、それは強く感じていたそうです。

試合自体は引き分けで終わったのですが、選手たちが喜ぶ姿を見たり、周りの人が駆け寄ってくれたりして、うれしさがこみあげてきましたね。

上野 私は沼津には行けなかったのですが、後援会主催で幹事会メンバーが中心となって、オリオンスクエアで「パブリックビューイング」を開催していただきました。

急ぎよ決まった企画でしたが、沼津に行けない多くのサポーターが、オリオンスクエアに入りきれずに、オリオン通りまであふれ、大型ビジョンに映る試合内容に一喜一憂しながら応援する会場の雰囲気は、まさに「栃木愛」を感じ、感動すら覚えました。得点シーンでは、沼津まで届くぐらい大きな歓声がまちなかに響きわたりましたよ。

「橋本社長は、社長就任時から『J2復帰』という期待がかけられて来ました。プレッシャーが大きかったのでは？」

橋本 私はずっとと畑の業種から来たので、お受けすること自体が大きなプレッシャーでした。ただ上野後援会長をはじめとして、本当にいろいろな方が、親身になって相談のつてくださり、人や企業とのリレーションを作ってくださいました。

スポンサー企業の方々も「もう一度、一緒にがんばりましょう」と言ってくれたり、行政や商工会議所会員企業の方々からも支援をいただいたりしました。

写真 上ノ【地域貢献活動】キッズを対象とした「わくわくグラウンド」栃木SCキッズスマイルキャラバンノ 写真 下ノ【地域貢献活動】高齢者向け「アクティブシニアプログラム」



「チーム」と感じていただけるよう、後援会としてもがんばっていきます。さらにクラブ、チームと市民との距離を縮めるお手伝いをしていきたいですね。今シーズンの開幕である2月25日にクリスタでお会いしましょう。

「ありがとうございました。」



2018 栃木SC選手・スタッフグループショット



パノパひろばで開催された「2017 栃木SCファン感謝会」